

矢巾スマート IC 整備について

～岩手県初のスマート IC として～

岩手県 矢巾町 道路都市課

1. 矢巾町の概要

矢巾町は、岩手県のほぼ中央に位置し、県都盛岡市の南に接しています。町の人口は 27,254 人、(平成 30 年 5 月 1 日現在)、面積は岩手県で二番目に小さい 67.32km² で、東部には北上川が流れ、西部には奥羽山脈へ連なる山裾の丘陵地が縦走しています。地域の 70% 以上は傾斜の少ない標高 200m 以下の平地地となっており、稲作地帯として水田による田園風景が広がっています。また、盛岡市への通勤圏となっており、住宅地を中心とした市街地が形成されているほか、岩手県の流通業務の中心的拠点である岩手流通センターや工業団地などの整備により、企業の立地が進んでいます。

現在、岩手医科大学矢巾キャンパスへの総合移転整備事業が進められており、盛岡広域都市圏と一体となった自立ある発展とともに、『希望と誇りと活力にあふれ 躍動するまち やはば』を目指し、まちづくりを進めています。

交通体系を見ると、一般国道 4 号、東北自動車道が南北に走り物流の動脈として機能しています。また、鉄道は在来線である東北本線が通っており、東西自由通路整備とともに橋上化された JR 矢幅駅が玄関口となり、通勤通学の主要な交通手段として利用されています。



2. スマートインターチェンジの整備について



3月24日 岩手県内初のスマートインターチェンジが開通

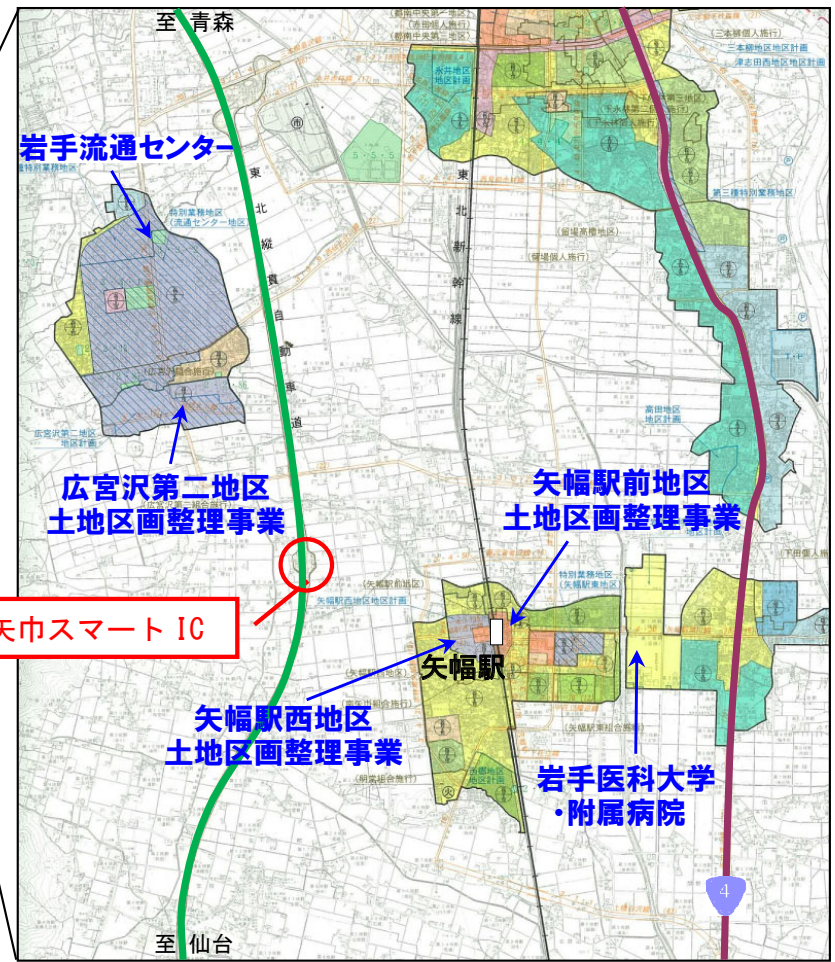
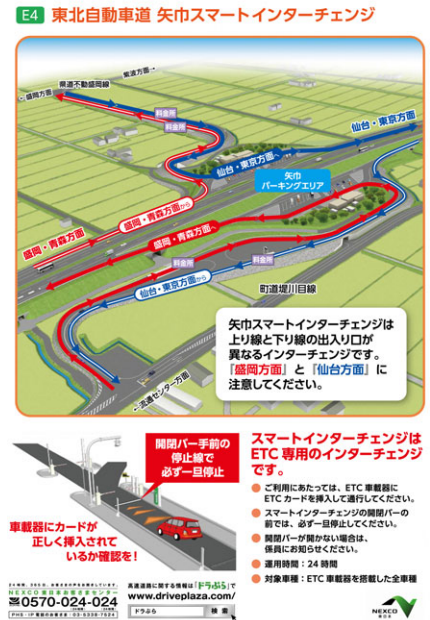
全国的には珍しくないスマートインターチェンジですが、今年 3 月に矢巾スマートインターチェンジが開通するまでは、岩手県内には設置されていませんでした。平成 25 年に事業化となり、岩手県内で初めて開通するスマートインターチェンジとして、既存の矢巾パーキングエリアに接続する形式で整備を行ってきました。4 月には奥州市の奥州スマートインターチェンジが開通しており、岩手県内においては来年以降も開通に向けて整備が進められている状況です。

矢巾スマートインターチェンジは東北自動車道の紫波インターチェンジから7.2km、盛岡南インターチェンジから3.8kmの場所に位置しています。

上り線は県道不動盛岡線に、下り線は町道堤川目線に接続する形で、上下分離型の構造となっており、スマートインターチェンジの利用方法のほか、誤侵入対策も含めて利用者への周知に努めています。また、計画交通量1日あたり1,900台を見込んでいますが、

開通から4月までの交通量は約1,600台となっており、今後、さらに利用促進に向けた取り組みを展開していく必要があると考えています。

なお、矢巾スマートインターチェンジから岩手流通センターなどの主要地点までの道路に歩道がなく、また、交差点の設計がセミトレーラー対応となっていないため道路改良整備を進めてきましたが、現在も工事が行われており、早期完成が望まれています。引き続き周辺のアクセス道路の整備と岩手医科大学までのルートでの改良整備を推進していきます。



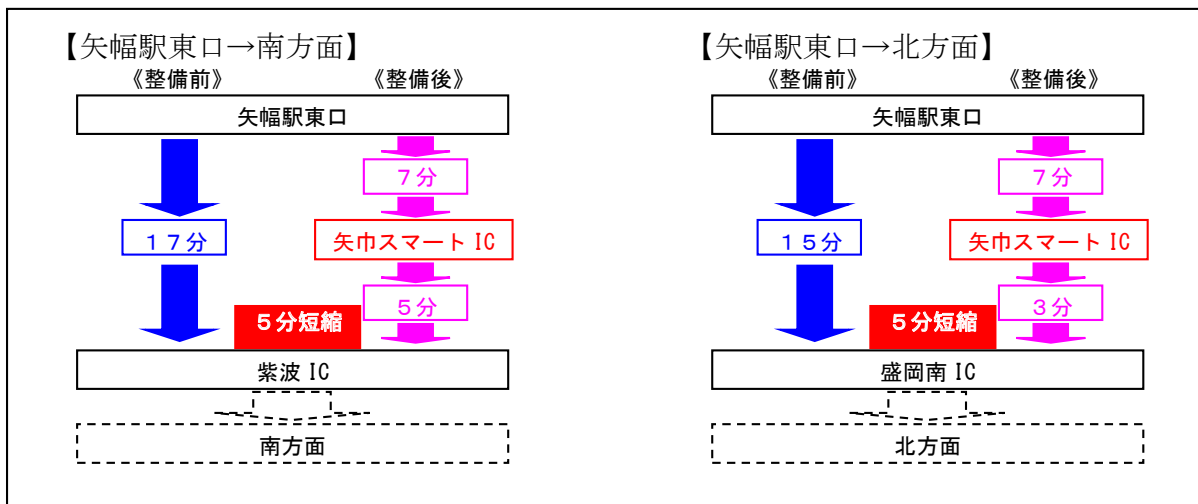
3. 整備効果について

矢巾町にはインターチェンジがなかったため、町内を縦断する東北自動車道へのアクセスについては、不便な状況にありました。町中心部から近く、利便性に優れた場所にスマートインターチェンジを設置することにより、平成31年9月に開院を予定している岩手医科大学附属病院を中心とした広域医療体制の充実が図られ、救急医療施設へのアクセス性向上による救命率の向上が期待されています。

また、矢巾町民や来町者の利便性も向上し、交流人口の拡大が見込まれるほか、岩手流通センターから南方面へのアクセス向上が図られ、物流の効率化や企業誘致の促進など地域産業の活性化が期待されており、矢巾町及び周辺地域の活性化に寄与すると考えています。

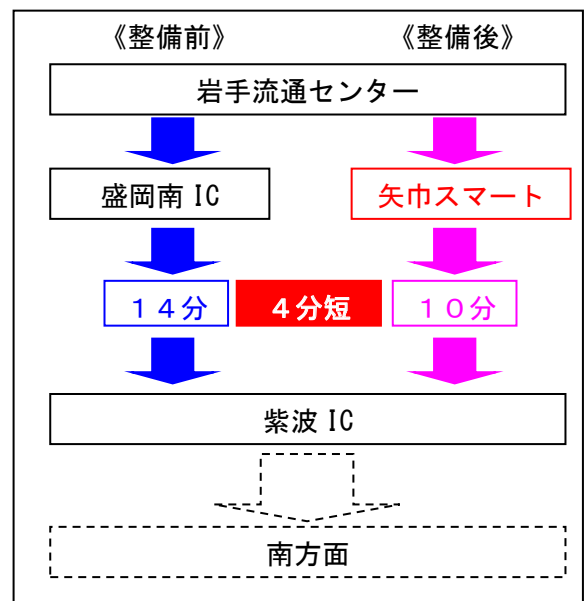
(1) 居住者・来訪者の利便性向上による交流人口の拡大

スマートインターチェンジの整備により、市街地と高速道路のアクセス時間が短縮し（市街地から紫波・盛岡南インターチェンジまでと対比して所要時間5分短縮）、住民の買い物や旅行、通勤等における利便性向上のほか、交流人口拡大による地域の活性化が期待されます。



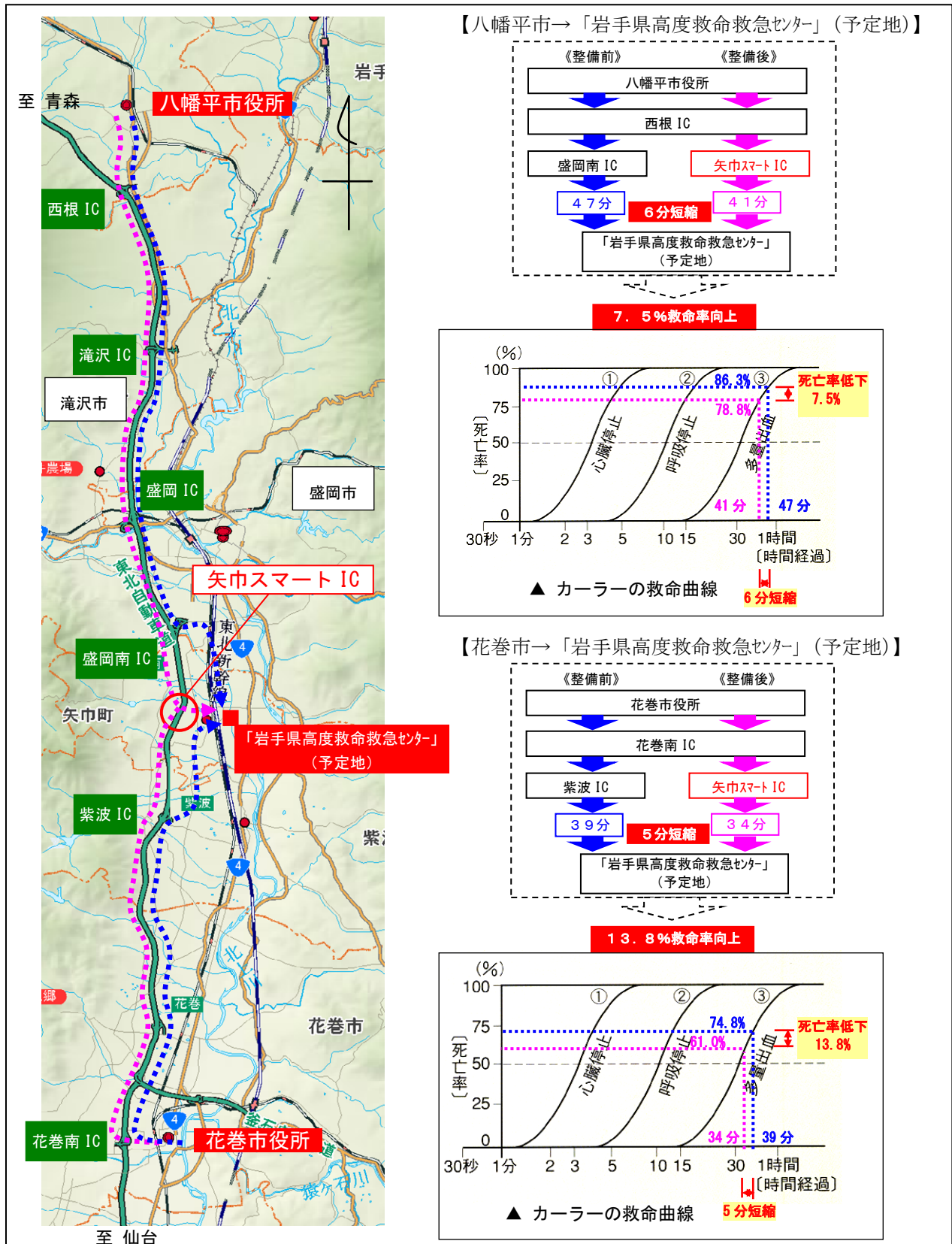
(2) 物流の効率化による企業誘致の促進及び地域産業の活性化

スマートインターチェンジが設置されることにより、岩手流通センターから南方面へのアクセス性が向上し（盛岡南インターチェンジを経由する場合と対比して所要時間4分短縮）、物流の効率化や企業誘致の促進など地域産業の活性化が期待されます。



(3) 救急医療機関へのアクセス性向上による救命率の向上

スマートインターチェンジの整備により、矢巾町への移転計画が進められている第三次救急医療機関である「岩手県高度救命救急センター」(岩手医科大学附属病院)への患者の搬送時間が短縮(所要時間5~6分短縮)され、救命率の向上が期待されます。



また、県内の各救急医療機関から転院搬送される際の時間が短縮されることで、患者の負担軽減につながるのと同時に、外来患者の通院時間の短縮により、利便性向上が図られます。

4. 「住みたいまち」の実現に向けて

岩手県初の開通となった矢巾スマートインターチェンジですが、岩手県からもバックアップをしていたきながら、事業化に向けた取り組みを行うことができました。また、県道に接続する形となっていることから、東日本高速道路株式会社東北支社、岩手県、矢巾町の3者による事業として展開してきました。

今後は、地区協議会を中心とした利用促進、利用者や周辺地域の安全性の確保に向けた取り組みのほか、現在、道路改良が行われているインターチェンジ周辺のアクセス道路の早期整備を進めていきます。

また、矢巾スマートインターチェンジ関連事業とあわせて、矢巾町の「命の道」づくりとして整備を行っている岩手医科大学附属病院周辺の道路整備についても、開院が来年9月となっているため、スピード感を持って取り組んでいる状況です。矢巾スマートインターチェンジから病院までのアクセスルートの安全性確保、移転予定地前の町道中央1号線の4車線化といった事業を中心に現在道路整備が進められています。

矢巾スマートインターチェンジの開通を契機として、また、矢巾町の発展のための一つの礎として、「住んでみたい」と思われる町から、より魅力的な「住みたいまち」の実現に向けて、生活環境の充実と活力があふれるまちを目指していきます。



夏の観光スポットとなっているひまわり畑